

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-2002	利用形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート歯科検診受診者 約1,300人 試料:なし 情報:基本情報(BMI、被災状況等)、調査票情報(既往歴、運動習慣、食事習慣等)、検体検査情報(骨密度、呼気NO検査、血圧等)、メタゲノム情報(歯垢、唾液)、メタボローム情報(血液)、歯科検診情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	口腔細菌叢と健康の関連解析			研究期間	2020年4月～2022年3月	
実施責任者	玉原 亨	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	助教
研究目的と意義	<p>近年、歯周病が様々な全身性疾患の誘因あるいは増悪因子となる可能性を示す報告が相次いでおり、慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、脂質異常症、非アルコール性脂肪性肝炎、慢性腎臓病、慢性関節リウマチ、認知症、及び妊娠高血圧症、流産、低体重児出産など多岐に渡っています。また、歯周病や齲蝕などの口腔内疾患に伴って、口腔細菌叢が変化することが報告されています。したがって、口腔細菌叢の変化がこれら疾患の誘因あるいは増悪因子となっている可能性が考えられます。</p> <p>これまでのところ、虚血性心疾患、糖尿病、慢性関節リウマチなどにおいて、その発症および治療応答性などと、口腔細菌叢の変化や特定の口腔微生物の増減が関連することが報告されています。しかしながら、多くは横断的な症例対照研究に基づいた報告であり、因果関係に関するエビデンスは十分とは言えません。さらに口腔細菌叢は食事内容や歯磨き習慣といった生活習慣にも大きな影響を受けており、健康への影響を解析するためには疾患のデータだけでなく生活習慣に関するデータが必須となります。</p> <p>そこで、本研究計画では、ToMMoメタゲノム室で解析された約1,300人の歯垢と唾液の細菌叢と各疾患および生活習慣の関連性を解析することで、口腔細菌叢と健康の関連について明らかにすることを目的とします。</p>					
研究計画概要	口腔細菌叢プロファイルと、環境要因、健康状態、疾患罹患状況に関する関連解析を行います。					
期待される成果	本研究によって個別化予防・医療のためのバイオマーカー、あるいは介入ターゲットとして口腔細菌叢を利用されることが期待されます。					
これまでの倫理 審査等の経過	2020年5月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針を遵守します。 情報の保管及び解析は、ToMMoスーパーコンピュータ内で実施し、外部へ持ち出しません。					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業					
* 公開日	令和2年5月1日					